

慶応三年八月二日より慶応三年八月四日まで

P8310705 right

痾(\*1)に託して不面シヤンハン三瓶贈らる鳴海絞り沓反を以謝す、(兵庫表)佐次兵衛より前書

仏一件、並彼方申

立の趣を認取候、三郎書通書入し届く、明日兵庫へ出立に付、是迄の贈方へ五方小遣(こずかい)兩人へ(二方一方)遣す

三日未 晴午下霽雨(こさめ)一過乍晴

払曉兵庫表より多吉郎着、御普請場の件を申し聞、且英公使差出、賀州への御書翰三通、並宿寺にて、被次□取候、香港銭見本一箇持来、書翰は禮の上京地へ差立見本銭へ昨本届く  
三郎佐次の文通とも竹内(隅)へ渡し候様申含、美濃屋(市)手代兩人見送りに来て半紙束  
(坂地出立)持来、酒銀(二方)を遣す、第四時出立、尼崎にては、領主より足輕兩人先払兩人出す、  
断る、第九時

半過西宮午休同所詰与力用聞に来る、二時半過兵庫旅善福寺着、西の宮迄より  
(兵庫着)追々出迎の所役人参着御代手代禮金吾も出迎ふ、同人引続旅宿へ来り一昨仏の

P8310705 left

一件纏々申聞る、佐次兵衛初め(支配向)追々来り面す、金一□融□は名刺を投す、御代官手附  
橋本(孝)来る

辞して不面、所役人共より西瓜乾菓子等設有し、家来迄然り、貞助昨本より病により医者(■)を遣す

従者一同着、賀銀遣す

四日申 雨午下止猶曇

佐次藤五、並御代官手代金吾一同来り、一昨召捕候藩士横田要引渡方の義、云々申聞る

雨天に付午時より場所

手引にいたし旨、融平来り届る、房之助着、届に来る、孫七庄兵衛大助同断来る不面、源十郎来  
仏

公使へ賀州御引合筋有し、今願御下坂、仏船は当港碇泊右に付、駿州よりの伝言申含を受け

□にて着し来る

右に付、仏船へ藤五郎を引合に遣す、駿河は直ぐに兵庫へ過ぎ行く、多吉郎坂地より帰着、  
着せしとて来る、兵庫

名主北風□八朔金持来此度は初入の意□の義を以、返し遣す、藤五郎帰途立寄、明日賀州兵庫へ

御出張の旨、聞る

\*1:痾(あ) こじれた病

( )内は細字双行(二行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。22,17,11

【文字判読不可】■は、文章の一部に汚れがある、虫食いにより文字が無い等です。